

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 '93 11.1 88



助言者の靈性強化

(第14回 全国理事会 福音の時)

芦名直道

“何を聞いているかに注意なさい、あなたがたは自分の量る秤で量り与えられ、更にたくさん与えられる。持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。”(マルコ4の24~25)

これは「種蒔きのたとえ」の後に語られたキリストの言葉です。この種蒔きのたとえはキリストの伝道が最初から非常な困難に遭遇していた事を反映しています。当時はユダヤ教支配の社会で、極めて閉鎖的な権威主義の社会でした。かかる社会で主イエスは福音を宣べ伝える事に励んだのです。その彼の伝道の思いが種蒔きのたとえに反映しています。ところでたとえは種蒔きのたとえであって、決して収穫のたとえ、ではない。収穫は他の人々がします。“1人が種を蒔き、別の人が刈り入れる”(ヨハネ4の37)と教えています。従って種蒔きが例え無駄骨折れと思えても種蒔き伝道は継続的に弛みなく行われねばならない。主イエスは伝道の困難さを4章12節で予言者イザヤの言葉を引用して立証した。

更に9節と23節では“聞く耳のある者は聞きなさい”と言っています。つまり困難な伝道では“聴く”事が大切だと教えているのです。聴くとは神の言葉を聴く事です。まず礼拝で“僕聴く主よ語りたまえ”と祈りつつ牧師の聖書の説き明かしに耳を傾ける事です。更に日常生活の中で語りかける神のみ旨を伺う姿勢を大事にする事です。ですから常に注意深く主のみ旨を尋ね、伺い一つも漏らさず聴き取ろうとする時に神は必ず豊かな実りを与え、更にその実は次々に蒔かれて多くの実を結ぶようになると約束されたのです。

そこで聴くと言う事を神の言葉を聴く人間の側の問題として考えて見ましょう。そもそも聴くという事はどういう事でしょうか？ 聴くとは何よりも語りかける相手の気持ちになり、その言わんとする思いを汲み取って上げる事でしょう。特に神のみ旨を伺わんとする場合には“僕聴く主よ語りたまえ”と祈る事が何よりも大切です。テモテ第1の手紙4章4~5節に“神がお造りになった物はすべて良い物であり、感謝して受けるならば何一つ捨てる物はないからです。神の言葉と祈りとによって聖なるものとされるのです”と教えています。即ち私たちの側の参与の仕方如何によって実りが与えられ、神の恵みが満ち溢れ、更に神の恵みに満たされた人々を通して次々に新しい人々に恵みが恵みを満たして、神の恵みの充滿を呼び起こすのです。

従って助言者の靈性強化には、まず何よりも聴く事に注意する事が大切です。特に困難な伝道を突破するには助言者が誰よりも礼拝の説教に聞き上手な者となる事です。更に日常生活で語りかける主のみ旨を聞き分ける鋭敏な信仰の感覚を持つ事です。つまり何よりも聴き上手になる事、そうすれば適切な助言をする事も出来ましょう。

次に助言を求めて来る者たちに対して聞き上手である事が望ましい。十分に聞き、十分に理解してあげて初めて適切な助言が出来るのです。“何を聞いているかに注意しましょう”。ヨブの雄弁だが心のない友人とならないように注意したいものです。

(東北アシュラム委員長
日本基督教団 福島教会牧師)



スタンレー
ジョーンズ
コーナー

キリストはだれにも必要である—2—

しかし、キリスト教はガンジーに与える何かをもっているだろうか。これが問題である。いつかガンジーが我々の或るグループで宗教に就いて話をしていた時、「回心というものはあるべきではない。他人に自分たちの信仰を分け与えたいと内心で熱望するようなことさえあつてはならない。宗教には回心のようないかなるものもあつてはならない」と言った。私の友人のアンドリュー氏は、このことに就いて彼に抗議した。「あなたはここで矛盾していません。あなたは我々の中で最も偉大な、改宗させる人ではありませんか。あなたは英帝国があなたの考え方に改宗する努力をしていられるし、また全インドがあなたの社会や経済に就いての見解に改宗するよう努めていられるのではないのでしょうか」と。ガンジーは答えた。「おお、それは正しくその通りだ。何故なら、政治や社会や経済の領域では回心は確かに十分あり得る。しかし宗教の領域となると、人々を回心

させる十分な確かさというものがないから、宗教には回心はありえない」と。彼は若しかしたら、無意識のうちにではなく、実は我々が何故もつと多くの回心者を得ていないかを指摘したのではあるまいか。

我々は回心に就いて確信が余りにも無過ぎる。新約聖書を調べてみると、弟子たちは強い確信の故に人々に回心を迫らずにはいられなかったことが分る。彼らは心の中に確信を与える何かをもつていた。彼らの疑問符(?)はますますく伸ばされて感嘆符(!)に変わったのである。疑問符は疲れた魂の下らない休息場に過ぎない。疑問符を用いて世界を回心させることは誰にも出来ない。若し、あなたがたが疑問符ばかりを東洋の我々のところにもつて来るなら、私は天の名によつて「来るな」と言う。しかし、若しあなたがたが恐れな

い自分の疑問符に直面し、それを感嘆符へと改変したなら、我々のところに来るがよい。何故なら、我々は確信が欲しいのだから。

しかし、それは単に教理的であつたり、自説を主張するようなものであつてはならない。むしろ、あなたの魂の隅々にまで彫りつけられている確信であり、あなたがしがみついている自信ではなく、あなたを捕え逃がさない確信、丁度光が眼を捕えるような、また真理が良心をうつような確かさである。

しかし、ガンジーは心の最も深いところで確信をもてなかつた。ここがガンジーにとりニード(必要があるところ)だと言えるのではないか。何時か、彼は自分の書き物の中に次のように記していた。「私は神を見たことがないし、神を知つてもいない。しかし、私は神を信じる世界の信仰を自分の神として」と。そこで私は問う。「クリスチャン—私の意味するのは誠実なクリスチャン—is、彼のこの言葉よりももっと優れたことを言えるだろうか。『私は神を見た。私は神を知っている。私は単に世界が信じる神を自分の神にただだけではない。私は私自身の神をもつている』と、彼はそう言えるだろうか。若し彼が言えるとする、それは自分を誇ることなのだろうか。それとも、ただ証しなのだろうか。」

私は新年を迎える毎に、私の心に浮かび続ける聖句を書き記すことにしている。私が求めたものではなく、ある聖句が私を求め捕える様に思う。このみ言葉は、それを中心思想として、その年私が生きていることになると思われるものである。去年与えられた聖句は「私は主を見た」であつた。これは誇りかそれとも事実であつたのか。我々は、誰よりもひどく傷つけられたあの顔を見た時、「この方はみ父である。そして私はそれで満足だ」と言うだろうか。あるグル(教師)に就いてガンジーは

こう書いている。「私は彼を多分に尊敬したが、私の心をゆだねるまでには行かなかつた。その王座はいまだに空虚であり、私の探索は尚、続く」と。そこで私は問いたい。「誠実なクリスチャンは彼よりましなことを言えるだろうか」と。彼の王座はまだ空虚かも知れない。彼の探索は続いているかも知れないが、その探索は成功しないだろう。何故なら彼はまだ申し分のないグルに出合っていないからである。と言うのは人がイエス・キリストのみ顔を仰ぎ見る瞬間、彼が自分自身に言い聞かせる言葉は、「私の探求は終わった。何故なら、これこそ道であり、真理であり、命であるから」であると。しかしガンジーの心の王座はまだ空虚である。

アシュラム生活の最良の友
アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)
国際的、超教派的、霊的な読物
価250円 72円、年1,932円

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11
振替口座 (東京) 1-193834 アパ・ルーム
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来42年続行中

アシュラムとは何か? Q & A

(4) 聖霊の啓導と充満

横山 義孝

Q アシュラムで「聖霊の啓導」と言うのはどういうことなのでしょう。

A 啓導の啓は神さまが天の窓を開いて、み声を聞かせ、み旨を知らせて下さることです。また導は具体的、日常的に私たちを聖霊なる神自身が進き、祝福へと至らせて下さることです。

人は自分が正しいと思つてことをしていれば間違わないと考えます。しかし私たちの生来のままの理性や判断には度々誤りがあります。何故なら、罪によって人間の諸機能に狂いが生じてしまっているからです。それで聖書を読み、これを理解するという信仰の行いにも、より深い聖霊のお諭しや、より広い教会の交わりの中で導いて頂く必要があるので。アシュラムで「明け渡し」と「静聴」がされますと、魂は十字架の血による罪の許し、聖霊による清めを信じ、聖化の恵みに与かります。そして心は鏡のように神のみ旨を正しく反映するようにされ、神の聖なるみ声と導きを従順に受けるものとされます。言い換えると、その人は「神の子」(ローマ8の14)の待遇を受け、祝福を豊かに頂くものとされます。

反すると言ったことはありませんか。 A 実はその点が導きを受けるのに大切なところ。神の導きは人間の合理性や良心の判断、健全な思考などと直ちに相反するものではありません。しかし私たちが自分に対する主のみ旨が何であるかを求める時、とかく安易な道、苦勞しない道、あるいは恥をかかないで生きのびようとする自我が働くのです。主イエスがゲッセマネの園で苦しんで祈りをささげられたのも此の課題のためでした。しかしわたしの思いのままではなく、み心のままになさって下さい(マタイ26の39)との主の謙遜と服従こそ、正しい導きを受けるための秘訣なのです。

Q 次に充満に就いて聞かせて下さい。

A 充満とは自分の魂が聖霊によって満たされることです。それはアシュラムの真の目的です。教会とは建物や組織ではありません。聖霊による信徒の交わりです。アシュラムは初代教会のペンテコステに於て聖霊に満たされた(使徒2の4)聖徒の交わりを回復することを目的とすると、スタンレー・ジョンズは言っています。聖霊による交わりのない所には真の教会もキリスト者もないのです。

Q 具体的には、それはどんな経験ですか。

A 結論から言えばそれは信仰によって受けとめるもので、特定の形の経験

に固執しない方がよいのです。いわゆる経験・体験には個人差があり、皆違っています。グマスコ途上のサウロには電撃的な、聖霊による主の顕現があり、ヨルダン川で受洗されたイエスには鳩のように聖霊が下った(マタイ3の16)とあります。心からの明け渡しと静聴、罪の悔い改めと許しへの信仰告白ができる、既にそれ自体聖霊の働きによるのですから、聖霊は注がれているのです。そこから祈りと信仰によって前進するなら、約束された聖霊を信仰によって受け(ガラテヤ3の14)「キリストを信じた結果約束された聖霊の証印をおされ」(エペソ1の13)という「わたしたちが求め、また思うところの一切を遥かに越え」(エペソ3の20)た聖霊充満の経験へと引き上げられるのです。教会の交わりは、ここを原点とし、湧き出る喜びと伝道への活力は、そこから始まるのです。ハレルヤ。

D.P.タイタス著 「聖ヨハネによる福音書」を読んで

森 政 雄

印度人で、その祖国伝承のブラーマン哲学を知り抜いた著者が、キリスト教にふれて、その本質が同一であることとを認め、更に深い受肉の信仰に入つた事の至福の悦びが溢れているように思いました。それにこの福音書に強調

されている確信が、「言」とか生命、光、真理、愛というような概念を繰り返して用いて表わされていることが、その文字を何回使用しているかを数えているのを見、強い印象を受けました。 私は曾て、E・ハーマン著「神秘主義の意義と価値」(英著)を読んで、諸宗教も哲学も求めている所は、真実なる神との神秘的合一であることを知りましたが、無の無を説く印度の宗教も、結局は帰一するものと教えられ、安心しました。御礼申し上げます。

アシュラムの原則と 実際

—第3版—

海老沢 宣道 著
新書版 52頁 価300円 千72円

発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟
申込先 東京都目黒区中央町 1-21-10 大石 嗣郎
振替口座 (東京) 0-4558番

D.P.タイタス 御国を来らせ給え

訳者 植村 俊雄
(価300円 千72円)

インド途上のキリスト

1986年10月改定版
著者 E・S・ジョンズ
新訳者 湖江 淳一
(特価1,500円と送料360円)

今秋開催のアシュラム

◆東北アシュラム

〔日時〕11月23日(火・休)～24日(水)
 〔会場〕宮城県グリーンピア岩沼
 〔主題〕「実が残るよ様に」ヨハネ15・1～17
 ●〔助言者〕大石嗣郎師
 〔定員〕三十名
 〔申込先〕福島教会・アシュラム係
 電話 〇二四五(三四)三七八七

アシュラムの恵み

◆第二回信州アシュラム

七月二十四日(土)～二十五日(日)、大町めぐみ教会で昨年のように開催。めぐみ教会牧師田中一男牧師司会で、助言者として石神 勇日本アシュラム理事を迎え、二回の主題講話を聞いた。使徒の働き第八章に静聴し、サマリヤ伝道のように教会として深みに乗り出して伝道すべきことを話し合った。

◆関東アシュラム

九月十四日～十六日、奥多摩吉里の福音の家で開かれ、五十二名が出席した。その内九名が初参加で、静かなうちに暖かい霊交がもたれた。

(報告者・石神)

助言者・西川口教会 島 隆三師はご自分の牧会者としての永い内的探求を「キリストに従う」ことに於いて語られ、深い感銘を受けた。一同溢れる恵みを注がれて山を下った。尚、次期関東地区委員長として日基教団碑文谷教会牧師・大石嗣郎師を、同地区書記として日ホ・元住吉教会牧師・木部安來師を選出した。



第31回関東アシュラム 於・奥多摩福音の家 1993.9.14~16

◆第28回九州アシュラムの恵み

諸集会が重なり、小人数であったが、内容は稀にみる恵み豊かなもので、キリストの御臨在を覚え、感謝で一杯であった。沖繩からの助言者・山田忠師は四十年に亘る真実な伝道牧会の素晴

しい体験を証しされ、聞く者らに多大の感銘をもたらされた。もう一人の助言者・門司の岡勝師は「イエスは主なり」と告白する者が、如何に生き、祈り、働くかを実例により示され、また牧師を支える「執り成し」の祈りの必要を強調された。ハレルヤ。



個人消息

○谷口浩三兄 関東地区アシュラムの常連であったが三月九日肝臓癌のために永眠された。慶応大・工学部事務部長を繰り上げ退任されて間もなくであった。横浜岡村教会員、65才。
 ○安藤 修師 七月に和歌山・丸の内教会から、横浜岡村教会主任牧師に。
 ○満丸 茂師 関東アシュラム委員・大宮前教会名誉牧師・昨年十一月、青梅市長渕の信愛荘に移られた。

○鍋島 勲師 九州地区委員 半年の子定で渡米留学される。
 ○大石嗣郎師 関東地区委員長に、木部安來師 同地区書記に選出された。

新刊 **聖ヨハネによる福音書**
—そのインド人への証し—
 A・ダヤ・プラカシュ・タイタス著
 海老沢宣道・飯島庸江 共訳

スタンレー・ジョーンズ師はインド人にはインド人の如き心を以て、イエスは宇宙的な主であると説いた。その志を継いでイエスこそインド東洋思想の完成者であると著者はこのヨハネによる福音書の解説を以て力説している。東洋人必読の書。
 1992年1月20日連盟発行 定価1,200円

アシュラムの五大原則

- (一) キリストへの明渡し
- (二) 御言への静聴と立証
- (三) 聖霊の啓導と充滿
- (四) 教会への奉仕と伝道
- (五) 神の国の体験と献身

東京都目黒区中央町1-21-10
 日本クリスチャン・福音伝道連盟
 振替口座東京〇一四五五八番
 理事長 白海老沢 宣道
 編集人 大石 嗣郎
 発行人 大石 嗣郎
 定価 一部60円 二部62円